

2023年5月11日

2023年3月期 決算短信補足資料



証券コード：4886

あすか製薬ホールディングス株式会社

ハイライト

2023年3月期 連結

売上高

- ✓ **604億円、前同比6.8%増加**
医療用医薬品事業、アニマルヘルス事業が着実に拡大し、過去最高の売上高を達成。

売上原価

- ✓ **318億円、売上原価率 前同比0.7ポイント改善**
先発医薬品である「レルミナ」「チラーヂン」「リフキシマ」の伸長による製品ミックス改善。

販売費及び
一般管理費

- ✓ **234億円、売上高販管費率 前同比0.7ポイント上昇**
経済活動の正常化に伴う事業活動費用の増加が影響。

営業利益

- ✓ **51億円、前同比6.5%増加**
販管費、研究開発費の増加はあったものの、売上、売上総利益の増加により増益。

2024年3月期 連結

業績予想

- ✓ **売上高 620億円、前同比2.5%増加**
- ✓ **営業利益 54億円、前同比5.7%増加**

損益計算書（連結）

単位：百万円	2022年3月期	2023年3月期	増減額	増減率
売上高	56,607	60,461	3,853	6.8%
営業利益	4,795	5,108	312	6.5%
経常利益	4,880	5,232	351	7.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,290	4,238	△51	△1.2%

増減要因

- ✓ エネルギー・原材料価格の高騰などのコスト増加要因、医薬品業界における毎年の薬価改定等、事業環境は厳しさを増す中で、新製品の伸長やこれまで以上のコスト縮減の取り組み等により、前年度に引き続き堅調に推移。
- ✓ 投資有価証券の売却に伴う特別利益を計上したものの、前年同期に固定資産売却益に伴う特別利益を計上した反動もあり、親会社株主に帰属する当期純利益は前同比1.2%減少。

事業別売上高（連結）

単位：百万円	2022年3月期	2023年3月期	構成比	増減額	増減率
医療用医薬品事業	50,791	53,579	88.6%	2,787	5.5%
アニマルヘルス事業	5,630	6,660	11.0%	1,030	18.3%
その他事業	185	220	0.4%	35	19.0%
合計	56,607	60,461	100.0%	3,853	6.8%

増収要因

- ✓ 医療用医薬品事業においては、薬価改定の影響を受けつつも全般的に堅調に推移。産婦人科製品の「レルミナ」「フリウェル」は前年に引き続き増加し、2022年6月に発売した「ドロエチ」が好調に推移。内科製品の「チラーヂン」「リフキシマ」が着実に伸長。
- ✓ アニマルヘルス事業においては特に飼料添加物の売上が堅調に推移。
- ✓ 臨床検査、医療機器、サプリメント等のその他事業については、前年度に発売した毛髪ホルモン量測定キットが売上寄与。

主要製品売上高（医療用医薬品事業）

単位：百万円

領域	区分	製品	2022年3月期	2023年3月期		2024年3月期計画		特記事項（2023年3月期）
			実績	実績	前同比(%)	見込	前同比(%)	
内科	AG	カンデサルタン類 ※1	12,394	10,723	86.5%	9,268	86.4%	薬価はダウンしたが数量ベースは維持
	先発品	チラーチン	7,499	7,733	103.1%	7,833	101.3%	疾患認知の向上などにより想定通りの進捗
	先発品	リフキシマ	4,854	5,397	111.2%	5,578	103.4%	ガイドライン浸透が進み伸長
	先発品	メルカゾール	1,458	1,486	102.0%	1,513	101.8%	想定通りの進捗
	GE	アムロジピン	1,073	901	83.9%	844	93.7%	薬価ダウンの影響を受け減少
産婦人科	先発品	レルミナ	7,334	8,839	120.5%	10,128	114.6%	子宮内膜症の適応を追加し伸長
	AG	フリウエル	3,463	3,489	100.8%	3,407	97.6%	薬価改定の影響を数量増でカバー
	GE	ドロイチ	—	3,671	—	4,165	113.5%	単独発売となり想定以上の進捗
	先発品	アンジュ	854	784	91.8%	799	101.9%	想定を若干下回る
	先発品	ルテウム	661	1,251	189.4%	1,363	108.9%	不妊治療保険適用による患者増により伸長
	先発品	マグセント ※2	850	626	73.7%	750	119.6%	新薬創出加算分を返還したため減少
泌尿器科	GE	リユープロレリン ※3	5,183	4,999	96.4%	4,828	96.6%	薬価はダウンしたが数量ベースは維持

※1 配合剤を含む

※2 硫酸マグネシウム製剤の合算値

※3 1.88mg製剤は産婦人科適応のみだが、3.75mg製剤との合算値

主要事業分野別売上高（アニマルヘルス事業）

単位：百万円

事業分野	2022年3月期	2023年3月期		2024年3月期計画	
	実績	実績	前同比(%)	見込	前同比(%)
飼料添加物 混合飼料 飼料原料	3,508	4,152	18.3%	3,832	△7.7%
畜産用医薬品	1,466	1,685	14.9%	1,680	△0.3%

増減要因

- ✓ 2023年3月期は、飼料添加物の販売が好調に推移したことに加え、畜産用医薬品分野の抗生物質製剤、繁殖用製剤が伸長。
- ✓ 2024年3月期は、高騰していた飼料添加物の市況の軟化を見込む。

2024年3月期業績予想（連結）

単位：百万円	2023年3月期 実績	2024年3月期 予想	増減額	増減率
売上高	60,461	62,000	1,538	2.5%
営業利益	5,108	5,400	291	5.7%
経常利益	5,232	5,500	267	5.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,238	4,400	161	3.8%

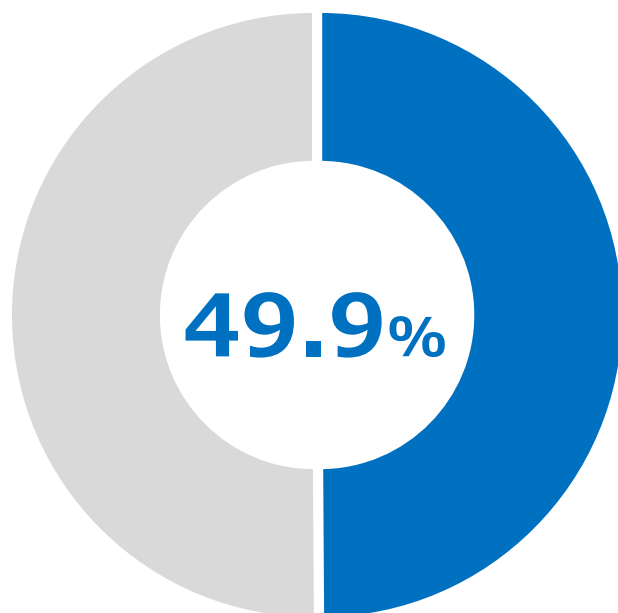
増収・増益要因

- ✓ 売上高は、主力の医療用医薬品事業において毎年薬価改定の影響を受けるものの、レルミナ等を中心とした産婦人科領域製品の伸長が寄与し、増収を予想。
- ✓ 利益面は、研究開発費の増加、および新型コロナウイルス感染症の影響が縮小したことによる事業活動の正常化に伴う費用の増加が見込まれるものの、増収による売上総利益の増加を受けて、増益を予想。

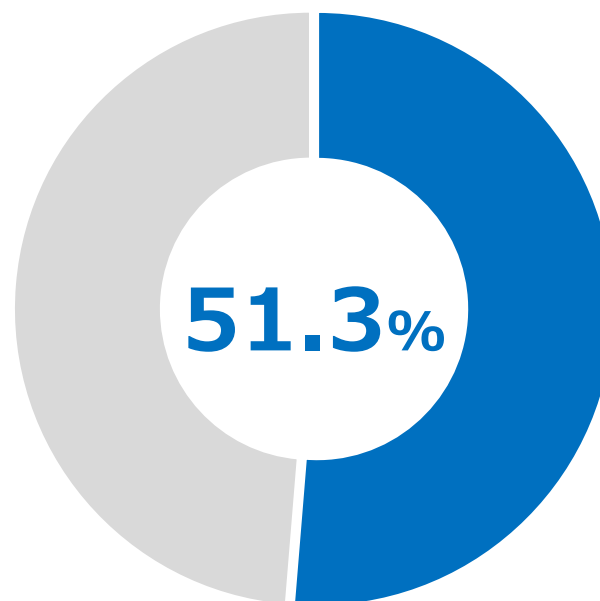
先発品比率

■ 先発品 ■ GE品

2022年3月期



2023年3月期

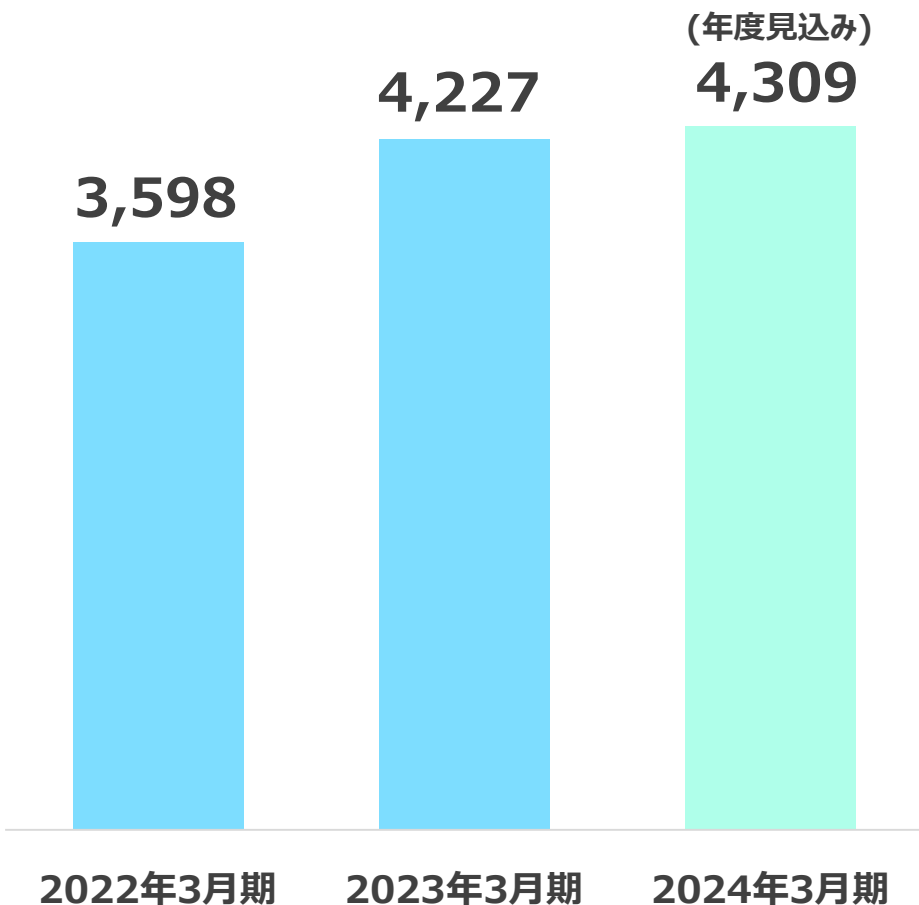


レルミナ、リフキシマ、チラーヂンの伸長により製品ミックスが改善し、先発品比率は1.4ポイント上昇しました。

研究開発の状況

研究開発費推移

(百万円)



2023年5月11日時点

開発番号(一般名)/領域・効能	状況
LF111 (ドロスピレノン) 避妊	Ph III
(オプション契約) PMS/PMDD治療薬 レナサイエンスにて開発中	Ph II (医師主導)
AKP-022 (レルゴリクス配合剤) 子宮筋腫	Ph I / II 準備中
TRM-270 (癒着防止材) 消化器領域・産婦人科領域	Ph III
L-105 (リファキシミン) 肝性脳症 (小児)	申請準備中
AKP-009 (ルダテロン酢酸エステル) 前立腺肥大症	Ph II
AKP-017 (テストステロン経鼻剤) 泌尿器科領域	開発準備中

- ・L-105 : Phase II / III 試験を終了し申請準備中
- ・AKP-009 : 再度Phase I 試験を予定
- ・子宮頸部異形成治療薬 : オプション契約終了